論　文

中国人日本語学習者の断りのストラテジー

－中国国内学習者の場合－

鈴木恵理子[1)*]

1）東北大学大学院国際文化研究科異文化間教育論講座

1．はじめに

依頼や断りなどの語用論的言語運用の場合，相手との関係やそのときの状況などを総合的に把握し，その状況や目的に適した言語行動をとることが重要となるが，その判断に際して，社会・文化的知識の把握は重要な役割を持つことが予想される．文脈としての社会・文化的要因を考えた場合，外国語学習よりも第二言語学習の環境のほうが語用論的運用能力が習得されやすいと言われている（Kasper and Schmidt，1996）．また滞在期間に関してTakahashi（1996）は，目標言語社会とどのぐらい接触しているのかが語用論的能力を左右する大きなポイントであると指摘している．

依頼や断りなど，従来，文化による違いが指摘されてきた多くの研究は，宇佐美（2003）によれば，依頼談話や断り談話のポライトネスの基本状態が言語・文化によって異なるということが明らかにされた研究とみなすことができる．それらの結果を単に文化差の記述として留めておくのではなく，特定の文化におけるある談話の基本状態として捉え，そこからの動きがポライトネス効果を生むという観点から捉えなおすことによって，異文化間ミス・コミュニケーションの原因の解明につなげていくことができると宇佐美（2003）は述べている．学習環境や日本での滞在など種々の要因により，日本語学習者の依頼や断りの場面におけるポライトネス・ストラテジーは変化することが予測される．しかし，宇佐美（2003）の言う基本状態からの変化という捉え方が従来なされてこなかったため，異なるグループの各々の発話の単なる比較に終わる場合が多く見られ，環境や日本滞在により影響を受け，それが学習者の語用論的運用面にどのように反映されたのかについては取り上げられてこなかった．

中間言語語用論についての先行研究を見てみると蒙韞（2008）は，中国語母語話者，日本語母語話者，中国人日本語学習者のポライトネスの表し方の相違という観点から，日本語学習者のポライトネスの表し方に母語の社会文化的規範が具体的にどのように影響を与えているのかを調査した．その結果，過剰般化を含む少なくとも部分的な中間言語の独自性を示唆しているが，意味公式の頻度の比較に統計的手法は使用していない．

生駒・志村（1993）では，L1が英語の国内日本語学習者・日本語母語話者・英語母語話者の断りについて，意味公式の頻度・順序・内容を調査し，相手の発話（依頼，招待，申し出，提案）と上下関係の影響を明らかにしている．これに親疎関係を加え，相手の発話・上下関係・親疎関係の３つを取り上げて調査した研究として伊藤（2004）がある．伊藤はマレーシア国内での日本語学習者，日本滞在期間の異なる日本語学習者，日本語母語話者，マレー語母語話者を被験者として調査している．分析では，発話の長さがていねいさの指標であるとして発話の長さを定量化し，地位×親疎×滞日期間の３要因について統計処理を行っている．

以上の点を踏まえ，本研究では，上下関係・親疎・相手の発話・意味公式を独立変数として統計処理を行い，断り発話への影響を調査する．中国国内で学習す

*）連絡先：〒013－0036　秋田県横手市駅前町10－10　suzueri1900@comet.ocn.ne.jp

る中国人日本語学習者の日本語を，中国語母語話者の中国語，日本語母語話者の日本語と比較し，３つのグループに共通するポライトネスの状態を把握し，その原因を探ることを目的とする．

本稿における分析の枠組みは，Brown and Levinson（1987）のポライトネス理論である．人間には，他人に理解･賞賛されたいというポジティブ･フェイスと，他人に邪魔されたくないというネガティブ・フェイスの２つのフェイスをもつ欲求があり，この２つを脅かす行為をFTA（Face Threatening Act）と言う．FTAは，話し手と聞き手の力関係，話し手と聞き手の社会的距離，相手にかける負担の度合いの和で表される．本稿では，話し手と聞き手の力関係として先生と同級生の２つの上下関係を，話し手と聞き手の社会的距離として親しい場合と親しくない場合の２つの親疎関係を組み合わせ，さらに，断りを引き出すための状況として依頼と勧誘の２つの場面を設定し，これら３つの要因が断りの表出にどのような影響を与えるのかについて調査する．相手にかける負担の度合いは今回扱わないこととする．

２．調査方法

２.１ 被験者の属性

2008年11月から2009年８月にかけて，次の３つのグループ（各20名）について調査を行った．

① JFL：中国国内で日本語を学習している学生，男性２名，女性18名，平均年齢25歳，平均日本語学習歴４年11カ月
② JJ：日本語母語話者，学生，男性５名，女性15名，平均年齢22歳
③ CC：中国語母語話者，日本語を学習したことがない学生，男性11名，女性９名，平均年齢23歳

JFLの日本語レベルは上級（日本語能力試験１級），中国語を母語とする漢族である．

CC，JFLの出身地は，黒竜江省，吉林省，北京市，遼寧省，河北省，山東省，陝西省，青海省，江蘇省，内蒙古自治区，湖北省，上海市，浙江省，湖南省，甘粛省，雲南省，広東省と中国各地に分散している．

JJの出身地は，北海道，青森県，岩手県，秋田県，宮城県，長野県，富山県，千葉県，福井県，愛知県，広島県，京都府，大分県，沖縄県である．

２.２ 調査紙

調査紙は，調査紙－１，２の２種類を準備した．

調査紙－１は日本語でのアンケート，調査紙－２は中国語でのアンケートで，どちらもDCT（Discourse Completion Test）を用いた．DCTは，場面（依頼・勧誘），親疎関係（親しい･親しくない），上下関係（先生，同級生）を組み合わせた全８場面を設定し，それぞれの場面で断わりの状況を設定しておき，被験者がどのように答えるかを書いてもらうものである．DCTから得られた結果から，10種類の意味公式を抽出し，各公式の使用人数を計測した．ある意味公式を使用したら１，使用しなかったら０とカウントした．

意味公式は，Beebe，Takahashi，and Uliss－Weltz（1990），生駒･志村（1993），藤森（1994），伊藤（2003）などで発話を分析するのに用いられている単位である．本稿ではおもに藤森（1994）に若干の修正を加えたものを使用した．表１に意味公式の分類を示す．

収集された文の実例を挙げ，意味公式の分類の方法を例示する．また調査紙は資料として最終ページに添付した．

例１：

<u>すみません</u>，<u>今日はバイトがあるので</u>
　詫び　　理由

<u>行けません</u>．<u>また次の機会にお願いします</u>．
　結論　　関係維持

例２：

<u>我也不好意思</u>，<u>明天我有重要的事呢</u>，
　詫び　　理由

<u>要不現在帮忙</u>？
　代案

表１　意味公式の分類

意味公式	意味役割	例
理由	相手の意向に添えない理由の説明	用事がある，都合が悪い，やることがある
詫び	相手の意向に添えないことについて謝る	すみません，申し訳ございません
関係維持	相手との関係を維持したい旨の表出	また今度誘ってください，次は出席します
代案	問題解決の方法として他の方法を提示	代わりをさがそうか，日曜日であれば出られます
共感	相手の意向に添いたい心情の表出	行きたいですけど，せっかくですけど，残念ですが
結論	直接的な断りの表出	行けない，だめだ，無理だ
感謝	相手の好意に謝意を示す	誘っていただいてありがとうございます
ためらい	ためらいのポーズで断わりを予感させる	ちょっと…，仕事が…
保留	断りの保留	時間があれば行きます，考えておきます
呼称	尊敬や親しさを表す	先生

２.３ 調査の手順

フェイスシートに記入してもらった後，JFLとJJには調査紙－１（日本語）に記入してもらった．状況はすべて日本での出来事で，設定した会話の相手も日本人とし，日本語で回答してもらった．文法的な間違いは問わないことを伝えた．CCには調査紙－２（中国語）に記入してもらった．調査紙－２の内容は調査紙－１と同じであるが，状況設定は中国で，設定した会話の相手も中国人とし，中国語で記入してもらった．

２.４ 分析の方法

分析には決定木分析を用いた．決定木分析は，独立変数と従属変数の関係に基づきデータを分析し，統計的に影響の強い順に変数が枝分かれするものである．多くの独立変数を扱うことができ，名義尺度も使用できるという特徴を持つ．本調査のように独立変数が多い場合でも影響の強さを統計的に処理できることからこの方法を採用した．

３．結果

中国国内学習者の中間言語を母語，目標言語と比較するため，CC，JFL，JJの３つのグループで決定木分析を行った．その結果を図１に示す．

分析の結果，依頼・勧誘の場面，親疎関係，上下関係は３グループの断りの違いに影響がなかったが，意味公式が強く影響していた．３つのグループにおいて，意味公式の使用人数の比率が有意に異なる７つのノードが分岐した．決定木は１番上のノード０から７つのノードへ分岐している（χ^2=180.793，df=12，p<0.0001）．これはCC，JFL，JJの３つのグループにおける意味公式の使用人数の比率のパターンが７つあることを示している．理由と関係維持の意味公式が同じノード１になっているのは，理由と関係維持の意味公式の両方で，３グループ間での意味公式の使用人数の比率が同じであることを示す．

理由，関係維持の意味公式を使用した人数の比率は，JFLが30.3%，CCが36.1%，JJが33.6%であまり差はなかった（ノード１）．詫び，感謝，保留の意味公式を使用した人数の比率は，JFLが36.3%，CCが27.6%，JJが36.1%で，こちらもあまり差は見られなかった（ノード２）．代案の意味公式を使用した人数の比率は，JFLが18.5%，CCが66.3%，JJが15.2%で，CC>JFL>JJであった（ノード３）．共感の意味公式を使用した人数の比率は，JFLが52.2%，CCが28.3%，JJが19.5%で，JFL>CC>JJであった（ノード４）．結論の意味公式を使用した人数の比率は，JFLが16.5%，CCが35.8%，JJが47.7%で，JJ>CC>JFLであった（ノード５）．ためらいの意味公式を使用した人数の比率は，JFLが80.5%，CCが12.2%，JJが7.3%で，JFL>CC>JJであった（ノード６）．呼称の意味公式を使用した人数の比率は，JFLが24.5%，CCが75.5%，JJが０%で，CC>JFL>JJであった（ノード７）．図１の決定木の結果をノード毎にグラフ化したものを図２に，各データを表２に示す．

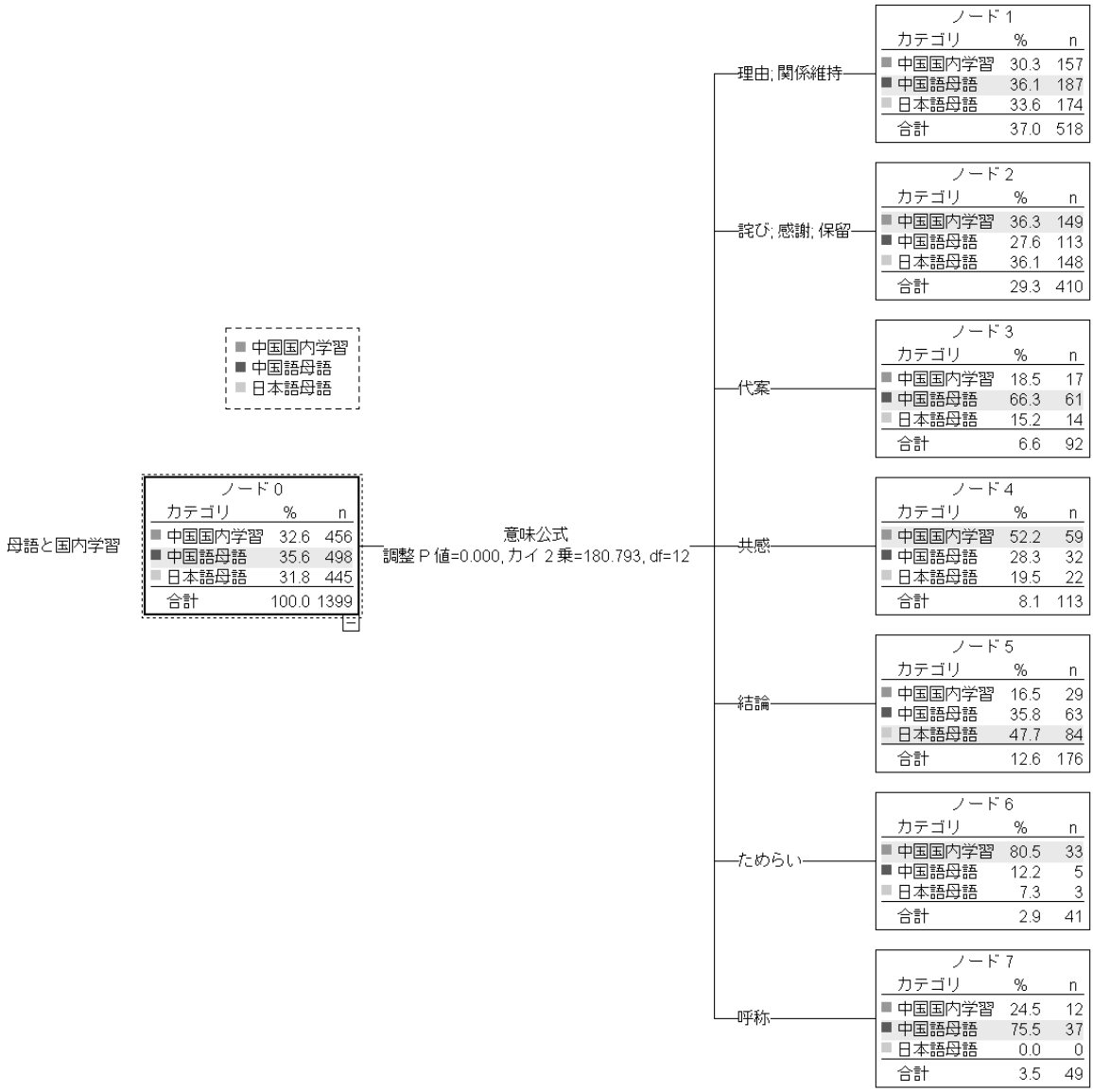

図 1　CC の中国語，JFL の日本語，JJ の日本語の比較

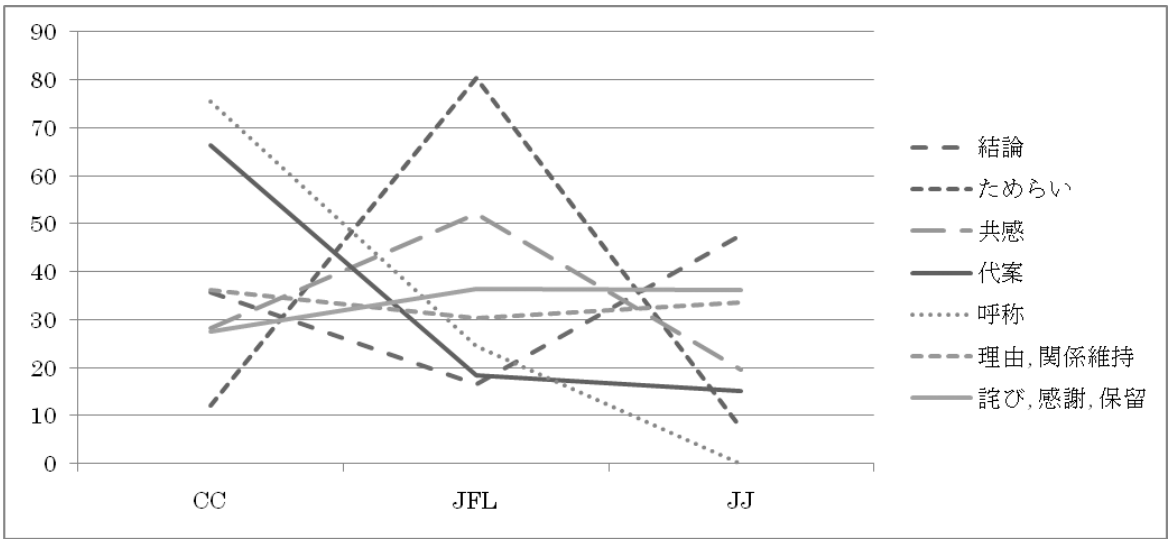

図 2　CC, JFL, JJ の意味公式使用人数の比率（%）

表２　CC, JFL, JJの意味公式使用人数の比率（%）

	結論	ためらい	共感	代案	呼称	理由，関係維持	詫び，感謝，保留
CC	35.8	12.2	28.3	66.3	75.5	36.1	27.6
JFL	16.5	80.5	52.2	18.5	24.5	30.3	36.3
JJ	47.7	7.3	19.5	15.2	0	33.6	36.1

決定木分析で10種類の意味公式が使用人数比率により７つのノードに分かれたが，これを基に更にCC，JFL，JJの３グループ間の関係という観点から３つのパターンに分類して分析を行った．

①パターン１（図３）：JFLとCC，JJの差が大きいもので，共感，結論，ためらいの意味公式で見られるパターンである．本来CCと同様の運用をすると考えられるJFLが，日本語学習により中国語とは異なりかつ日本語に近い運用をすることが予測されるが，結果はJFLがJJに近くなっているとは言えない．JFLは中国国内でのみ日本語学習を行っており，日本人との実際の接触場面は少なく，また日本の社会や文化との直接の接触も少ないと考えられる．日本語や日本文化に関する知識は，テキスト，教師，メディアからのインプットが大半を占めることから，それらの影響が大きいことが考えられる．中国国内でのインプットが，現実の日本人の運用とは異なるものである可能性が推測される．中国国内学習で，実際の日本人の言語運用を正確に適切に学習することの難しさが示唆された．

②パターン２（図４）：JFLがCCとJJの間にあるパターンで，代案，呼称の意味公式で見られる．

代案の意味公式では，CC（66.3%）>> JFL（18.5%）> JJ（15.2%）となっている．また呼称の意味公式ではCC（75.5%）>> JFL（24.5%）>> JJ（０%）となっている．CCは75.5%とかなりの人数が呼称の意味公式を使用しているが，JFLになると全体の４分の１ほどに減り，JJに関しては使用人数は０%であった．JFLは日本語では呼称をCCの中国語ほどは使用していないことから，日本語学習により呼称を使用しないというストラテジーを学んだものと思われる．代案と呼称の意味公式においては，日本語での運用において習得が進んだと考えられる．

③パターン３（図５）：CC，JFL，JJ間でほとんど差が見られないパターンであり，理由，関係維持，感謝，保留の意味公式がこのパターンである．理由，関係維持の意味公式では，CC（36.1%）>JJ（33.6%）> JFL（30.3%），詫び，感謝，保留の意味公式では，JFL（36.3%）> JJ（36.1%）> CC（27.6%）となっ

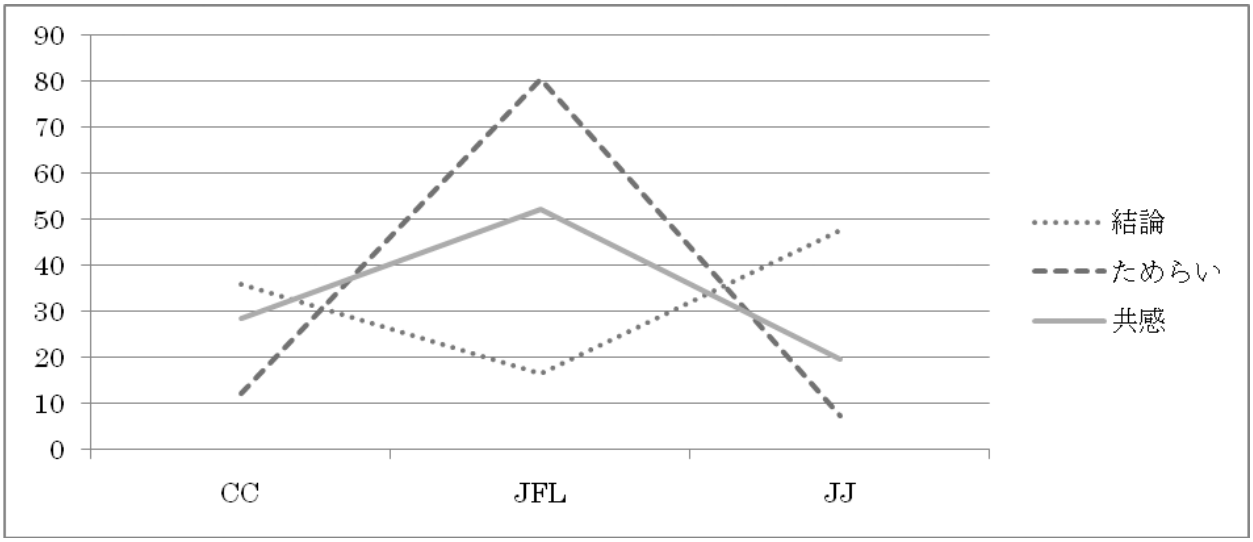

図３　パターン１

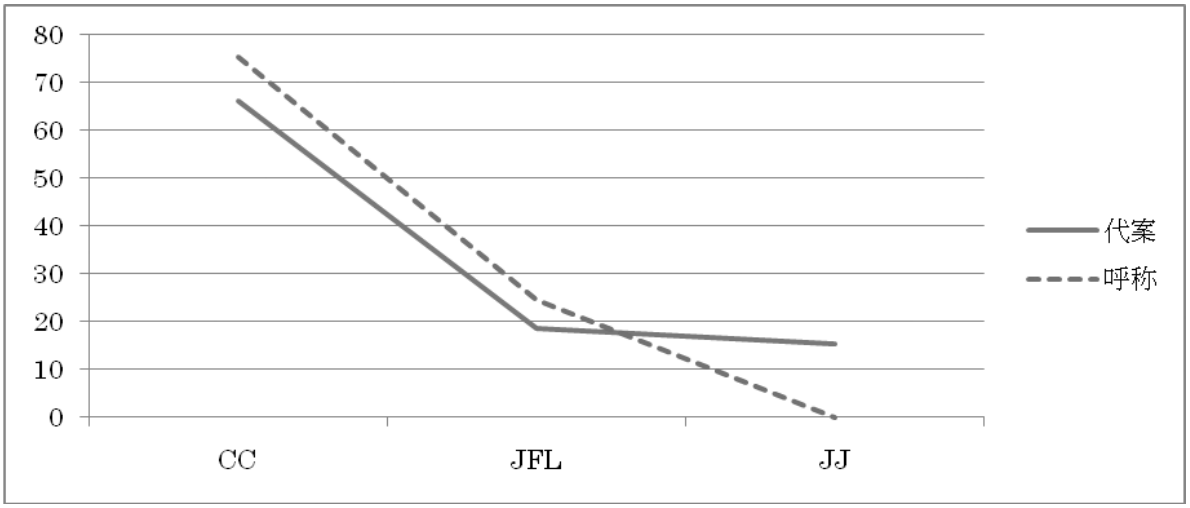

図４　パターン２

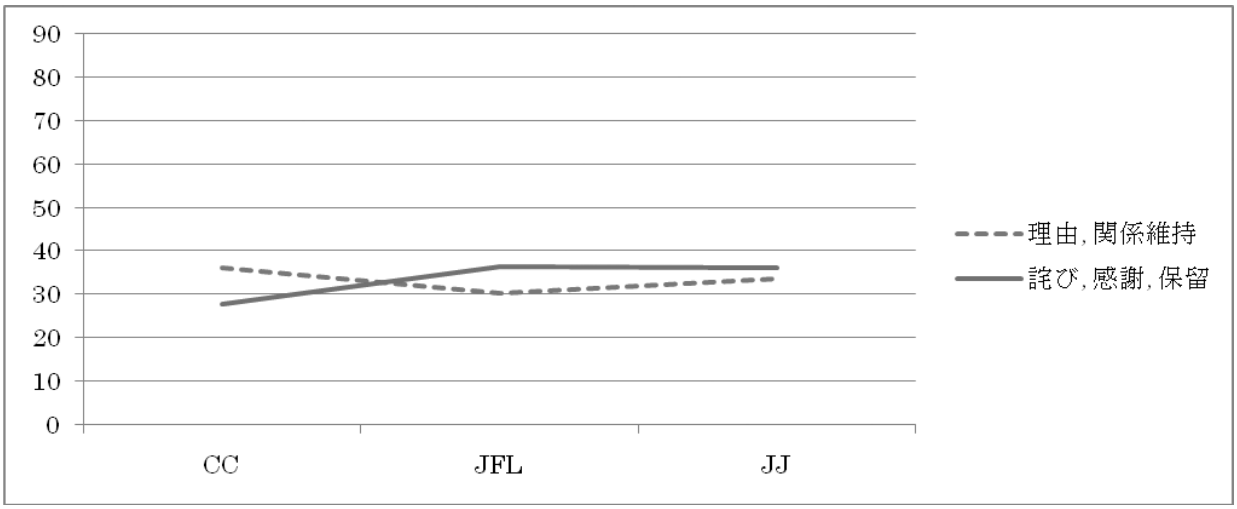

図５　パターン３

ている．CC, JFL, JJの３グループ間でほとんど差が見られなかったことから，理由，関係維持，詫び，感謝，保留の意味公式はCC，JFL，JJにおいて基本的に使用される意味公式であると言えよう．

４．考察

依頼と勧誘の場面，親疎関係，上下関係，意味公式の種類の４つを変数とし，分析を行った結果について考察する．

４.１ 依頼と勧誘，親疎，上下関係の３要因の影響

本調査では，先行研究でよく取り上げられる要因である依頼と勧誘の場面，親疎関係，上下関係の３つの要因が，断りの表出にどのような影響を与えるのかについて調査分析を行った．その結果，この３つの要因は本調査の条件下では，CC，JFL，JJの３グループの断りの違いに影響がなかった．従来の研究では，特定の意味公式に焦点を当て，どのような関係の場合にその意味公式の使用頻度が高いかというような質的分析がほとんどであった．本調査の分析結果は先行研究での質的分析とは一致しない．しかしながら，本研究では，すべての意味公式の使用人数の比率について，依頼と勧誘の場面，親疎関係，上下関係の影響について統計的に分析を行っており，得られた結果は重要であると思われる．本調査で扱った依頼と勧誘の場面，親疎関係，上下関係の３つの要因以外にも，言語運用に影響を与える社会文化的要因がある可能性が考えられるため，今後は別の要因についても検討する必要が

あると思われる.

4.2 意味公式の影響

分析の結果，３グループの断りの違いに意味公式の種類が強く影響していた．個々の意味公式の使用人数を調査することで，CC，JFL，JJの３グループにおける意味公式の持つ役割の重要性が確認された．CC，JFL，JJの意味公式を比較分析した結果，CC，JFL，JJの３グループにおける各意味公式の使用人数の比率において，３種類のパターンが見られた.

①パターン１では，結論，ためらい，共感の意味公式，とりわけ結論とためらいの意味公式においてJFLがCCやJJと異なった運用をしている．本来CCと同様の運用をしていたと考えられるJFLが日本語を学習することにより，JJの運用に類似していくことが予想される．しかしパターン１では，JFLはCCからJJに近づくとは言えず，CCともJJとも異なる運用をしていた.

JFLがこのような変化を見せたことは，JFLが国内学習者であるということに関係がある可能性が考えられる．JFLが日本についての知識を得るのは，テキスト，教師，メディアなどからのインプットであり，実際の日本人との接触場面が少ないと思われることから，国内で得られるインプットの影響度は大きいと考えられる．中国人が日本人にもつイメージと指摘される「よく謝る，曖昧だ，結論を言わない」（王，2008；工藤，2008）に関連する意味公式として本調査では，詫び，ためらい，結論の意味公式が挙げられる．この３つのうち，ためらい，結論の意味公式について，パターン１の結果が得られたことは，日本人に対して持つイメージがJFLの運用に強く作用した可能性が考えられる．JFLがためらいの意味公式をCC，JJより非常に多く使用していたことから，JFLが日本人はためらうことが多いという先入観を抱いていたことが予測される．また，JFLが結論の意味公式をJJの３分の１ほどしか使用していないのは，JFLが，日本人ははっきり結論を言わないものだという先入観があったと予想される．つまり，JFLが国内学習で得たインプットから自分のなかに取り込んだ日本語運用に対する学習者の認識が，現実のJJとは異なっていた可能性がある．中国国内学習では，教授内容，教材が学習に重要な影響を与えると思われる．中国での日本語教育に使用される教科書については毋（2003）が調査を行っており，中国の大学で使用されている６種類の教科書の待遇表現に関連する部分を調査したところ，待遇表現の概念を導入していない，会話部分の設定に問題がある，練習問題に具体的場面の設定がない，待遇表現に関わる文化的事象を無視している，などが明らかになったと述べている.

本調査の結果から，JFLの日本語教育において，語用論的知識を適切に教授する重要性，必要性が示唆された．中国人留学生に聞いたところ，語用論的知識は国では特に習わなかったと回答する人が多く見られ，国内学習での語用論的知識を学習する機会はほとんどないことが推測された．語用論的知識学習の重要性がまだ教材に反映されていないものと思われる．今後教材開発の際には，初級段階からの日本語のポライトネスの概念の導入を含め，日本のポライトネス・ストラテジーの実態を反映し，現実の場面を多く取り入れたものを使用することが望ましい.

②パターン２では，代案と呼称の意味公式において，CCでは使用人数が多いものの，JFLになると減少し，JJになるとさらに使用人数が減少していた．グラフにすると，右下がりの図となる．このパターンでは，JFLはCCとJJを結ぶ線上に位置する形になっている．このことは，JFLがこの意味公式において母語よりも目標言語に近い運用になっていることを示している．代案と呼称の意味公式においては国内学習でも順当に学習が進んだことが示唆された.

③パターン３は，CC，JFL，JJの間であまり変化が見られないものである．理由，関係維持，詫び，感謝，保留の意味公式がこのパターンに分類される．３グループを通してほとんど変化が見られないことから，これら６つの意味公式は本調査のCC，JFL，JJにとって共通に使用される基本的な意味公式であると言えよう．この基本的な状態は，本研究での被験者についての基本的な状態であり，調査時期や場所により変化することもあり得る．しかし本研究で実施したような調査を繰り返し行うことで，より大きな集団の基本的な状態が把握できると思われる．さらに，本研究

でJFLにおいて特異性が見られた，ためらい，結論，共感（パターン１）については，日本滞在の日本語学習者の場合にどのような変化を見せていくのかは興味深い点である．今後は日本滞在の学習者についても調査，分析を行っていく予定である．

参考文献

生駒知子・志村明彦（1993）「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー：「断り」という発話行為ついて」『日本語教育』79号，41－52.

伊藤恵美子（2004）『マレー語母語話者のポライトネスの諸相：勧誘・依頼行為に対する返答を中心に滞在期間の観点から』名古屋大学大学院国際開発研究科国際コミュニケーション専攻博士論文

宇佐美まゆみ（2003）「異文化接触とポライトネス」『国語学』第４巻３号，117－132.

王敏（2008）『日本と中国－相互誤解の構造』中公新書

工藤泰志（2008）『中国人の日本人観，日本人の中国人観』言論NPO

藤森弘子（1994）「日本語学習者にみられるプラグマティック・トランスファー－断り行為の場合－」『名古屋学院大学日本語学・日本語教育論集』第１号，1－19.

毋育新（2003）『高等教育機関で学ぶ中国人日本語学習者に対する待遇表現の指導に関する研究：ポライトネス理論を取り入れた授業の確立を目指して』麗澤大学博士論文

蒙韞（2008）「中国人日本語上級学習者の語用論的転移の一考察」『国際開発研究フォーラム』36,241－254.

Beebe, L. M., Takahashi, T., & Uliss－Weltz, R.（1990）Pragmatic transfer in ESL refusals. In R. C. Scarcella, E. S. Anderson, & S. D. Krashen（Eds.）, *Developing Communicative Competence in a second Language*, 55－73, Rowley, MA : Newbury House.

Brown, P., & Levinson, S. C.（1987）*Politeness: Some Universals and Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.

Kasper, G., & Schmidt, R.（1996）Development issues in interlanguage pragmatics. *Studies in Second Language Acquisition*, 18, 149－169. Cambridge University Press.

Takahashi, S.（1996）Pragmatic transferability. *SSLA*, 18, 189－223. Cambridge University Press.

資料

会話に関するアンケート

このアンケートは，いろいろな場面でのことばの使い方について調査するもので，テストではありません．
いつも話しているように書いてください．お答えいただいた情報は，調査研究のためにのみ使用することをお約束いたします．ご協力いただけることに感謝申し上げます．

《場面１》日頃から学習面でよく指導を受けるなどお世話になっている先生に，ゼミの学生たちと一緒に夕食を食べに行こうと誘われました．しかし，あなたはその日はどうしても休めないバイトがあります．

先生：今週の土曜日に，ゼミの学生たちとみんなで夕食を食べに行かないか．
あなた：

《場面２》親しい友達に，今日一緒に夕ご飯を食べに行こうと誘われました．しかし今日あなたは，どうしても休めないバイトがあります．

友達：一緒にご飯食べに行かない．
あなた：

《場面３》親しい友達に，所属するクラブ（サークル）の学園祭での発表会のための準備を明日手伝ってほしいと頼まれました．しかしあなたは明日どうしても休めないバイトがあります．

友達：明日の学園祭の準備，手伝ってくれない．
あなた：

《場面４》同じ研究室の，普段はあまり話すことのない間柄の先生に，明日の午後，他の学生数人とともに研究室に残って，来週の自分の講演会の準備を手伝ってほしいと頼まれました．しかしあなたは明日の午後，どうしても休めないバイトがあります．

先生：悪いけど，明日，研究室に残って，講演会の準備を手伝ってくれませんか．
あなた：

《場面５》普段挨拶ぐらいしか交わさない同級生に，今度の日曜日，自分の所属する吹奏楽クラブの演奏会に来ないかと誘われました．しかし，あなたはその日はどうしても休めないバイトがあります．

友達：今度の日曜日に演奏会があるんですけど，よかったら聴きにきませんか．
あなた：

《場面６》同じ研究室の，普段はあまり話すことのない間柄の先生に，ゼミの学生たちと一緒に夕食を食べに行こうと誘われました．しかし，あなたはその日はどうしても休めないバイトがあります．

先生：今週の土曜日に，ゼミの学生たちとみんなで夕食を食べに行きませんか．
あなた：

《場面７》普段挨拶ぐらいしか交わさない同級生に，所属するクラブ（サークル）の学園祭での発表会のための準備を明日手伝ってほしいと頼まれました. しかしあなたは明日どうしても休めないバイトがあります．

友達：明日，学園祭の準備，もしよかったら手伝ってくれませんか．
あなた：

《場面８》日頃から学習面でよく指導をうけるなどお世話になっている先生に，明日の午後，他の学生数人と共に研究室に残って，来週の自分の講演会の準備を手伝ってほしいと頼まれました．しかしあなたは明日の午後，どうしても休めないバイトがあります．

先生：悪いけど，明日，研究室に残って，講演会の準備を手伝ってくれないか．
あなた：